

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 49

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.49

全北海道教職員組合

2019.1.6

変形労働導入を前提に、議会などで検討 道教委・佐藤教育長が記者会見で表明

●道教委佐藤教育長～「導入を前提に、議会などで検討していきたい」

道教委の佐藤嘉大教育長は、12月20日の記者会見で、1年単位の変形労働時間制について導入を前提とした検討を、改めて表明しました。

制度導入に関して、長時間労働の是正を前提とする国の方針を示しつつ「働き方改革を進める上での選択肢の一つになる」と指摘した上で、「導入を前提に、議会などで検討していきたい」と表明しました。また、意見集約にあたっては、職員団体や校長会、教頭会と意見交換を行う考えを示しています。

佐藤教育長は、11月29日の道議会でも、制度導入による効果として「休日の増加による教員のゆとりの創造と、年間を通じた勤務の総時間の縮減につながる、学校における働き方改革を推進するための方策の一つとして有効と考えている」と答弁しており、引き続き、制度導入に前向きな意向を示したことになります。

国は、変形労働導入にあたって、これから文部科学省令や指針を示すとしています。具体的な内容が明らかになっていないにもかかわらず「導入を前提」とする道教委の姿勢はあまりにも拙速です。



●札幌市教委長谷川教育長～「慎重に検討する必要がある」

一方、札幌市教委の長谷川雅英教育長は、北海道通信日刊教育版（1月1日）の新春インタビューにおいて、1年単位の変形労働時間制の導入について「慎重に検討する必要がある」との考えを示しました。

制度導入に関しては、「この制度を効果的に導入するためには学校の業務総量の縮減に加え、部活動や研修など、休業中における業務の取扱いなどもあることから、国から示される具体的な運用等を踏まえながら、慎重に検討する必要があると考えている」としています。

●教職員の長時間労働や変形労働導入について、教育関係諸団体と懇談

道教組は、12月から1月にかけて、各校長会やPTA連合会などの教育関係諸団体と、教職員の長時間労働や変形労働導入について、懇談を行っています。これまでに行った懇談では、教職員の長時間労働についての問題意識や、抜本的な改善策を求める基本的な考え方については一致をしています。

変形労働導入によって長時間労働を覆い隠そうとするのではなく、教員を増やし業務を削減する抜本的な改善策を求める世論を、各地で広げていきましょう。

